

仏教学専攻（博士後期課程）の3つのポリシー

【教育の理念】

仏教学専攻は、仏教の教義と曹洞宗の立宗の精神に基づく建学の理念を基礎として、1) 幅広い教養と専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、2) 価値観や意見の多様性を理解し他者と協働する力、3) 情報分析しその問題を適切に解決する能力を身につける為に、「丁寧な教育」「厚みのある教育」を施し、自己形成に不断に努め、社会の発展に寄与しうる人材の育成を教育の理念とする。

仏教学専攻（前期2年の「修士課程」および後期3年の「博士後期課程」）では、上記の理念を根幹とし、学部教育において養われた基盤の上に、仏教学並びにその隣接分野において、広い視野と精深な学識を授け、当該の研究分野で先導者として個人の様々な能力および高度な専門知識を積極的に社会に発信する姿勢を兼ね備えている人材の育成を目指す。

また、大学院生自身の有する、専門分野の顕在的および潜在的能力の高度な展開を促す為の指導を行う。併せて、学界、地域社会、企業社会、グローバル社会など各界・各領域・各所で、リーダーとしての役割を担いうる積極性、情報処理能力、コミュニケーション能力を修得させ、社会的活躍を担えるような指導も行う。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

仏教学専攻は、先述の教育の理念に基づいて定められた下記の3つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本専攻定める所定の単位を取得し、指導教員による研究指導を受けた上で、博士論文を提出して、その審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。なお、博士論文の提出要件については本専攻で厳密に定めている。

(DP1) 専門分野の高度な知識や卓越した技能の活用力

専門分野に関する高度な学識と、幅広い知見を身につけている。また、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、専門分野における先導者として、特定の学問領域を中心として、広く社会に向けて新たな知見や価値を創造・提案し、還元していくことができる。

(DP2) 情報分析する能力、課題を設定し、課題に内包される諸問題を解決する能力

自立した研究者として、独創的な観点から課題を設定し、専門的な学識や技能を用いながら継続的な研究遂行と研究結果の蓄積・収れんを行うことができる。また、最先端のツールや手法を駆使し、専門情報を収集するだけでなく、それらの分析によって、今までにない知見を導き出すことのできる高度な判断力を有する。

(DP3) コミュニケーション能力

学術論文執筆や学会発表などを通じて、自らの独創的な研究結果や新たな知見を国内外の学界に発信すると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて自らの研究業績を発信し、自ら導き出した新知見の社会的な活用や定着を模索することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

仏教学専攻博士後期課程では、「修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた3つの能力を養成する為に、仏教学という学問領域の特性に応じた体系的な教育課程を提供する。博士後期課程における教育課程編成と実施は、授与する学位ときわめて密接な関連を有するものであることより、その充実に向けて最新の研究動向を踏まえて更新され続けなければならない。それに当たっては、ニーズに適い、かつ体系的な教育課程を編成し、定期的に自己点検・自己評価を実施することを通して、不断の改善に努める。

さらに、本専攻に属する学生に対しては、自らの研究の専門領域ばかりでなく、社会に対する貢献・責任に関する意識の向上を図る。

加えて、先行研究ばかりでなく、情報化社会の無限に溢れる情報から論文盗用等が行われないよう、教育課程の中で直接・間接に研究倫理に関する高い意識の醸成を図る。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、高度な専門知識と研究能力のさらなる向上を目的として、当該テーマに関する先行研究の批判的検討、文献講読、論文作成等に関わる教授と指導を綿密に行う。具体的には、本専攻（博士後期課程）の教育課程は、禅学・仏教学・宗教学・インド哲学などにわたっており、多様な時代や地域に応じた思想・文化・歴史についての研究が十全に遂行できるように編成されており、またそのことを念頭において教員が配置されている。
- 2) 研究指導科目は、専門領域・研究課題に応じて博士論文作成上必要とされる事項について演習形式で緻密な研究指導を行う。

2. 教育方法

- 1) 講義科目では、高度な専門知識の修得ばかりでなく、研究能力の一層の向上を目指して、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。
- 2) 研究指導では、課題設定の独創性、研究計画の妥当性や実現性について客観的に評価・助言し、学術論文や学会発表に関する指導を行い、高度な研究水準の博士論文の作成・提出に向けて、進捗状況を確認しながら、研究を段階的に着実に積み上げることができるよう指導を行う。
- 3) 研究指導を中心とする、博士論文の作成指導においては、教員と学生の間で「提出要件」、「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、意思疎通を綿密に図りながら研究指導を行う。
- 4) 講義科目と研究指導科目に有機的な関連をもたせて各学生の研究活動を支援する。
- 5) 博士論文の提出については、指導教員が進捗状況だけでなく本専攻で定める「提出要件」を満たしていることを厳密に確認する。また、提出された博士論文の審査にあつては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員会により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力、語学力を兼ね備えていることを厳密な形で確認する。

- 6) 修士課程・博士後期課程の院生を中心に大学院仏教学研究会が組織され、定例研究発表会の場が設けられている。とくに博士後期課程の院生には駒澤大学仏教学会での研究発表の機会も与えられる。
- 7) 研究倫理教育は、研究科・専攻に拠らない一般的な内容については e ラーニングなどの方法を用いて広く提供し、各専門分野特有の研究倫理については、研究者として自立して研究を遂行できるよう、研究指導を通して補充・補完する。
- 8) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。”

3. 評価

博士後期課程では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、機関レベル（大学院）、教育課程レベル（研究科・専攻）の2段階のレベルで学修成果の評価・測定を行う。

とりわけ、教育課程レベルにおいては、入試結果並びに修士論文を基に入学生のその段階での能力を評価・測定する。在学生については、毎年提出される研究計画書を主に資料として学修の成果を評価・測定し、博士後期課程の研究の成果としての博士論文が提出された場合は、主に博士論文に関する評価と修了判定資料をも顧慮しながら、学修成果を評価・測定し、その評価は博士論文審査報告書としてまとめられる。なお、学修成果の評価・測定を検証する為に、修了生には進路届の提出を求めている。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	4	1～3	◎	◎	○	専門分野の高度な知識および情報収集・分析等の研究活動上必要な研究手段・手法についてさらに深化させる。
研究指導	—	1～3	◎	◎	○	個別の研究テーマに基づき、指導教員との密な意思疎通を取り、議論や発表を行い、学術論文の作成および学会発表等を通じて、最終的に博士論文にまとめる。
博士論文	—	—	◎	◎	○	研究の集大成として、自ら設定した研究テーマに関し、独創的な観点から、新たな知見を示す論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	○	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を十全に身につけ、それを意識して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

仏教学専攻博士後期課程は、仏教学という広範な研究領域に関する高度な専門的知識や研究技術を兼ね備えている学生のうち、駒澤大学大学院に入学した後もより高度な専門知識や研究技術の向上、さらには思考力の深化を目指し、自律的に研究活動を行う明確な目的意識と意欲的に研究に取り組む姿勢を有した入学者を求め

る。また、入学希望者に対しては、仏教学並びにその隣接分野において、広い視野と精深な学識を授け、当該の研究分野で先導者として個人の様々な能力および高度な専門知識を積極的に社会に発信する姿勢を有する人材の育成を行うとする、仏教学専攻の教育の理念を理解した上で出願することが望まれる。また、学問的に伝道教化の研究を志す学生を受け入れることも視野に入れている。

こうした受験生を適正かつ公正に選抜するため、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

- (AP1) 専門分野に関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 入学を希望する研究科・専攻で継続する研究の成果を専門的知識や技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 地域社会、国際社会、産業界の事象について主体的に課題を設定し、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく根拠をもって独創的な論理を展開することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの研究業績を適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験	出願書類	◎	◎	◎	○	学士課程レベルの基礎的な専門知識を有すると認められる者を対象とし、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。専門分野や外国語(英語)に関する筆記試験、面接口試を実施する。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認等を行う。
	筆記試験	◎	◎	○	○	
	面接試験	◎	◎	○	○	
社会人特別入学試験	実施していない					
外国人留学生入学試験	実施していない					